

浄土宗第一の聖典—『選択集』—を学ぼう

- ・『選択集の研究 註疏篇』（三康図書館請求記号：ラ 3-883）

石井教道(1886-1962)師 著 誠文堂新光社、1945(昭和 20)年

本書は、元大正大学教授・石井師のライフワークである『選択集』研究三部作（総論篇、講述篇、註疏篇）の一つ。『選択集』の註釈書を中心に、『選択集』への謗難書も含め、総数 521 部を網羅し、これを鎌倉期 35 部、吉野室町期 24 部、江戸期 347 部、明治期 89 部、大正昭和期 26 部の 5 期に分け、各期を宗派別に並べて、それぞれの著作の概要について整理している。付録として、選択集未解題註疏目録、研究論文一覧、選択集年表、書名人索引を収録している。

俗に「5000 余部の大蔵経」と呼ばれる中、これほど多くの註釈書・謗難書が撰述された仏典は皆無であろう。法然上人による浄土立教開宗の宣言書である『選択集』の撰述が、仏教の革命的転換として、いかに大きな衝撃を与えたのかをあらためて知ることができる。ちなみに、本書の刊行日は、第二次世界大戦終戦の 5 日前である。本書の紙質は決して良いとは言えず、その出版がいかに困難なものであったかをひと目で知ることができる。ただただ石井師の偏依法然への思いに敬服するばかりである。

- ・『選択集講義』（三康図書館請求記号：ケ 3-352ニ）

石井教道(1886-1962)師 著 仏教聖典講義刊行会、1936(昭和 11)年

本書は、元大正大学教授・石井師のライフワークである『選択集』研究三部作（総論篇、講述篇、註疏篇）の一つで、講述篇にあたる。そもそも、「大蔵経講座」第 16 巻として昭和 10 年（1935）2 月に上巻、同 11 年 12 月に下巻が東方書院より刊行され、さらに、昭和 11 年 7 月、「仏教聖典講義大系」第 17 巻として仏教聖典講義刊行会から刊行（1 巻 1 冊、誠文堂新光社）された『選択集講義』の増補訂正版である。第 2 刷（昭和 42 年〔1967〕5 月）以降は平楽寺書店より刊行されている。

法然上人の署名が遺る当麻寺所蔵の元久元年（1204）写本を底本とし、『選択集』全文を原文・校異・和訳・講説・研究・註に分け、それぞれに詳細な考察を施している。とりわけ、『選択集』解釈上の相違につき、浄土宗の理解を中心に据えながらも、西山三派や真宗の解釈を紹介し、あるいは、三祖門下の解釈の相違にも言及が及んでおり、その精緻な考察は他の註釈書を圧倒している。これは言うまでもなく、上記『選択集の研究 註疏篇』編集という地道にして膨大な作業の賜物に他ならない。石井師による念仏信仰への篤い情熱がほとばしる書である。

(林田康順)